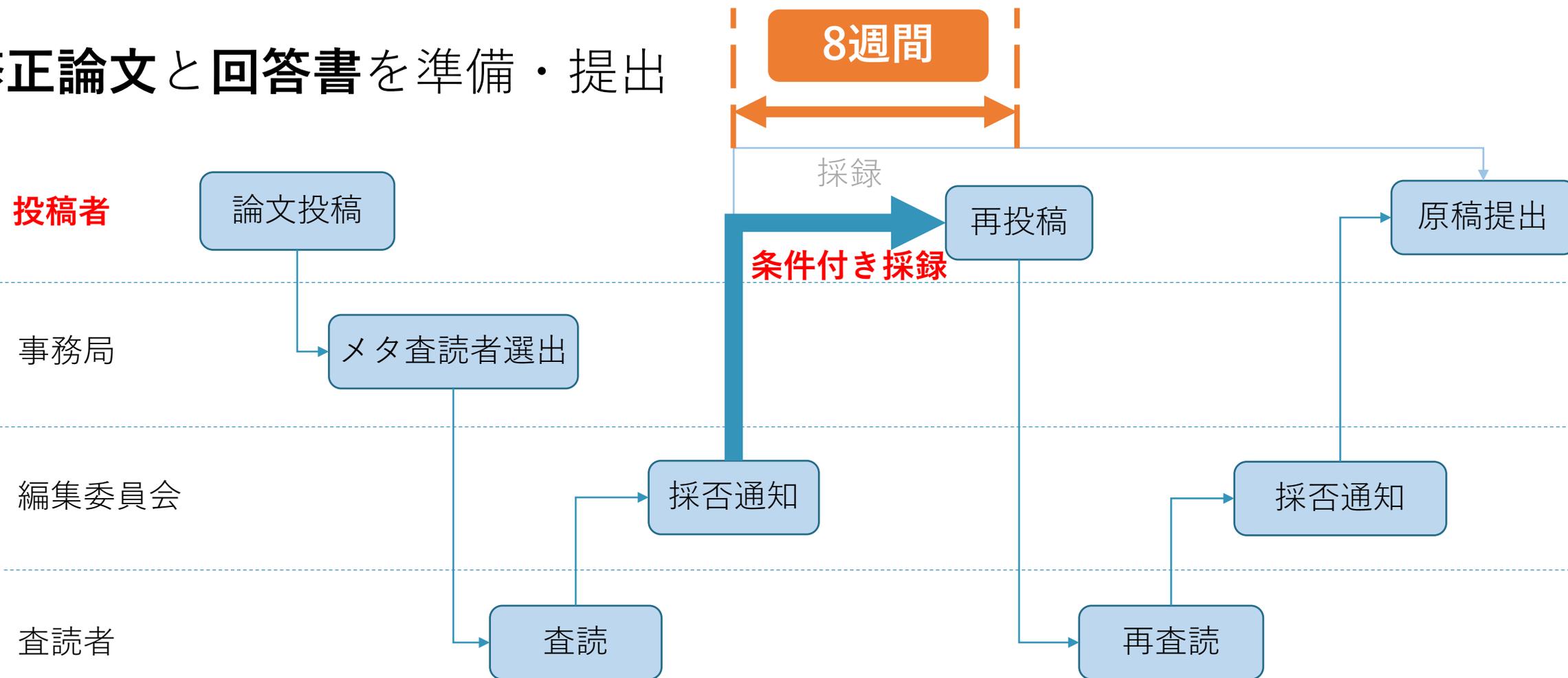


「条件付き採録を通すには」の前に:
条件付き採録とは

情報処理学会 論文誌編集委員会 知能グループ 主査
山田 太造
(東京大学史料編纂所)

査読 → 条件付き採録 → 再査読(採否判定)

修正論文と回答書を準備・提出



査読報告と採否結果は 編集委員会でチェックしています

- ・査読姿勢

“論文の価値は最終的には社会が決めるので、
学術上の議論を活性化する可能性があるのであれば
積極的に採録としていく”

査読ポリシー：「石を拾うことはあっても玉を捨てることなかれ」

- ・論文誌編集委員会での採否結果と査読報告の確認・修正依頼

論文の優れた点・不足点を
客観的で具体的に明確に記述された査読報告が
著者に届けられるように

- ・査読は基本的に1回のみ（2回目は採否判定）

大幅な修正が必要になると考えられるものは不採録(再投稿を促す)

基本的には通せる論文は通したいと考えています

こういう背景ですので

投稿者の方からは

「査読者は論文に難癖をつけて落としにくる敵？」のように感じる瞬間もあるかもしれませんが、

そうではありません！

査読者を

タイプミスなどではなく、
主に内容に関して必要な修正箇所を指摘してくれる**協力者**と
考えてください！！



採録条件 = 論文を出版するために必要な「最低限の基準」

- 最低限これは満たしていないと論文として出版できないこと

条件付き採録とは？

- ほとんどの掲載論文は条件付き採録を経ています
- 条件付採録と判定される論文は、掲載するうえで**不足な点**がある投稿です

(例1) **説明不足**の指摘:

- 論文に書かれていない点(≡著者の頭の中にしかない)

(例2) **調査不足**と思われる点を指摘

- 既存研究との違い

Web上の規定をご覧ください

- どの説明や調査が不足か？それは評価ポイントに関わります
 - **新規性:** 研究の位置づけ、手法の意義など
 - **有用性:** 提案の新規性・有用性を示す評価実験
 - **論文の体裁:** 原稿執筆要領に従っているか、読んで分かるか、等

これらが全て
ではありません

よくある不足箇所⇒採録条件

- **新規性**に関する理由

- 業界全体における位置づけが不明
 - 既存研究との差異が明確でない
 - 手法の意義が不明（既存手法を何となく使ってみた系）
 - 比較実験などの不足
- } 関連研究調査・記述不足

- **有用性**に関する理由

- 問題設定が現実問題とかけ離れている
- 現実問題の問題サイズでは動かない

- **正当性**に関する理由

- 上記の新規性を示せる評価実験であること
- 良い論文(手法)か ←最高精度を達成する手法に限りません
- 評価実験に用いるデータが限定的

採録条件：新規性

これらが全て
ではありません

- 業界全体における位置づけが不明、既存研究との差異が明確でない
 - **関連研究との関係の記述により、客観的に新規性を主張する**
- 手法の意義が不明（例：既存手法を何となく使ってみた系の記述）
 - 何となく使ったわけではないなら、例えば、
「**解きたい問題**があり、この問題はこのような**性質**をもつため、
この手法でなければならない」と書くことも可能では？
 - 研究を進めた順番に論文を書くことが
必ずしも正しいとは限らない
- 比較実験などの不足
 - 既存研究との**比較により客観的に性能を示す**

採録条件：有用性

これらが全て
ではありません

- 研究の意義， **目的が曖昧**
- 問題設定や定理の条件が曖昧
 - 対象とする問題が前提とする条件や仮定が曖昧であると，得られた結果がどのような問題に応用できるかが分からなくなってしまう
 - **条件の明確化**により， **論文の位置づけを明確にする**
- 実験設定が現実的ではない
 - 現実問題の問題サイズでは動かない

投稿前に繰り返しチェックをしましょう！

そのほか

対応の仕方については、
つぎのパネリストからお話があると思います

まとめ

- ・掲載される論文の**大半は条件付き採録を**通って掲載されます
- ・採録条件は論文出版に必要な**最低限の不足点の修正の依頼**です
- ・査読結果に書かれた採録条件の**すべてに対処**ください

本日の話のまとまった文書は「情報処理学会 論文必勝法」で検索
または

<https://www.ipsj.or.jp/magazine/ronbun.html>

